展覧会名:祈りの大地

会期:平成20年11月1日(土)~平成21年2月22日(日)

概要:1995年から2004年にかけて、関口は京都・永観堂禅林寺のために、大小あわせて20点もの障壁画を制作、奉納した。1000年以上の歴史を有する古刹を飾るこれらの障壁画は、内容、規模ともに関口の最大の仕事と言うことができるだろう。

このうち 95 年から 98 年にかけて制作された画仙堂障壁画《浄土変相図》の題材として、関口は北海道の風景を選んだ。とりわけ最も重要な須弥壇を飾る《浄土の霊峰》が旭岳をモチーフとして描かれたという事実は、関口の、北海道の自然に対して抱いていた畏敬の念を感じさせて余りある。

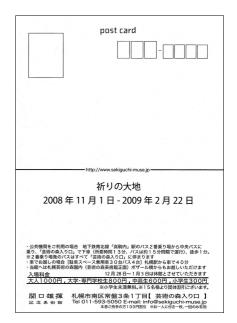
本展では、《浄土変相図》のための各小下図と、北海道の風景を描いた作品を展示し、 関口の発想の源泉として、北海道という地がいかに重要な位置を占めていたのか確認したい。

同時開催:関口雄揮スケッチ展 礼文島讃歌 (第二展示室)

概要:1970年代より北海道の各地を取材して制作に取り組んだ関口が、最も関心を寄せたのが礼文島だ。日本の最北端に位置するこの島には、なだらかな丘陵と峻厳な海岸と、豊かな植生が織りなす美しい風景、そしてなにより、海から吹き付ける強い風や雪といった、関口の求めた美しさと厳しさを併せ持った極北の自然があった。今回は1991年から94年にかけて描かれたスケッチを展示。礼文島の各所が、四季を通じ、繰り返し、丹念に描かれている様子から、関口のこの島への愛着を窺う。



フライヤー表



フライヤー裏